

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100230		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり大通西		
所在地	札幌市中央区大通西12丁目4-64		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=0190100230-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様にとって一番大切な御家族様が気軽に立ち寄れる場所であり、常に御家族様と職員が入居者様を共に支えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム みのり大通西」は地下鉄西11丁目駅から徒歩で5分ほどの札幌市中心部に位置し、大通公園の四季を感じる豊かな自然に恵まれている。7階建物の2～3階が2ユニットのグループホームで、同法人のデイサービスとサービス付高齢者向け住宅を併設している。開設2年を迎え、本部の部長は各会議に参加して、現場の意向を反映した事業所の基礎づくりを管理者・職員と一緒に熱心に取り組んでいる。利用者は大通公園の各イベントに参加し、公園や電車通りまで足を延ばし、日々散歩を楽しんでいる。また交通便の良い立地条件から、馴染みの友人や知人の来訪が頻繁にある。今後は町内会との関係を構築し、町内会行事等に参加して更に住民との交流機会を広げたい意向である。また運営推進会議に地域の代表として町内会からの参加を得ながら、地域住民との役割分担で災害時の協力関係を築き、利用者が地域の一員として安心して暮らせる環境整備を考えている。法人の支援体制でマニュアルの整備や研修も充実し、昨年は看取りケアも実施している。職員は介護計画に基づいて利用者を尊重した支援を行い、重度化しても個別の状況に応じて温かな姿勢で対応している。

V. サービスの成果に関する項目(2階すずらん館 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大通公園を取り囲む地域のなかで、常に入居者様に寄り添いながら理念を共有している。	地域の一員として四季を感じながら共に過ごす、という内容の理念をリビングに掲示し、パンフレットにも載せている。職員は理念を意識してケアを行っているが、更に話し合いの機会をつくり理念の共有を深めたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流の機会がなく、日常的交流はない。	四季を通して行われている大通公園のイベントに利用者也参加し、近隣の美容室やコンビニエンスストアの利用で近隣と親しくしている。ボランティア訪問での催しを楽しむ機会もある。今後は近くにある保育園児との交流の場づくりを考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の秋から開催、4回が終了した。	今年度は運営推進会議を4回開催し、2か月毎の開催に向けて進めている。町内会の事情もあり、代表の参加が得られず、町内会行事への参加や災害時の協力関係は今後の課題になっている。家族は交代で代表参加になっており、会議案内や議事録は参加者のみに送付している。	今後も地域代表として、会議に町内会役員の参加が得られるような働きかけを通じた、地域との関係作りを期待したい。また全家族にテーマを設定した会議案内と議事録を送付し、会議に家族の意向が更に反映されるように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡会議に出席できている。	本部の部長が窓口になり、市の担当者に運用などで相談をしている。介護認定申請を郵送で行い、高額サービス制度についても電話で確認している。今後は区に出かけて情報交換を行い、担当者との関係作りを考えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の安全性上、施錠されているが、身体拘束については職員は研修で学んでいる。今後も定期的に繰り返し学習するよう検討している。	入社3か月後の職員を対象にした法人研修に参加し、身体拘束廃止について学んでいる。外部研修に参加した職員の報告書を閲覧で共有しているが、今後は伝達講習として学習会に充てることを考えている。職員の余裕のないケアで対応が気になる時は、職員を変えるなどの工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修において学習している。又、事業所内部において事故防止委員会も開き、都度意識を高め防止に務めている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は詳しく学ぶ機会が今のところなく、その必要性を理解するに至っていない為、勉強会を開きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけでなく、書面においても説明をしながら理解に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今後、検討します。	家族の来訪が多く、報告の中で意見を伺い、また介護計画サービス担当者に家族が参加する事もある。意向などは家族ノートに記載し共有しているが、些細な思いを把握するために家族アンケートの実施を考えている。	開設時に法人で家族アンケートを実施しているが、今後も法人と相談しながら独自の家族アンケートを行いたい意向なので、その取り組みに期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、機会を設けており開設後も既に半年に一度のペースで実施している。	会議に本部の部長が参加することもあり、業務改善やケアの提案などを話し合い、設備などすぐ解決できない事案は本部の管理者会議に諮っている。職員は部長との個人面談で相談し、管理者とも相談しやすいと感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々との面談を行い働きやすい環境を目指して。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修の機会が無かった一年目機に年間の研修予定を検討中である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今のところは交流はない。今年は年間行事などで交流可能な範囲で実施できればと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係作りを前提に詳細な情報を得ることで、思いを理解するよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここの入居に至るまでの様々な不安・困り事を受け止めた上で、ご本人にとって最も良い方向へ導けるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と介護支援専門員が中心となり御本人・家族に面談し状況把握に努め支援の方向性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の長年の経験を生かして活躍の場を作り尊敬の思いを言葉で伝え互いに良好な関係となっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が一番の介護者である事を十分理解し常に情報を交換することで御本人も安心出来る様共に支援する立場である。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会も多く、交通便の良さが影響している。	近所の方、昔からの知り合いの方、また趣味で一緒だった教室の方々の来訪が頻繁にあり、月に1回は訪れている方もいる。近所の行きつけの美容室に通ったり、家族と馴染みの店で外食などを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を理解した上で利用者同士が円滑に関われるよう仲介に入り親しく出来るよう全員参加できるレク活動等行なっている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療の為、退去に至った方が入院先から帰ってくるに当たりその受け入れ先の施設を調べるなどしてご家族様に案内等を実施。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談の時から、御本人、又はご家族様には生活に対する意思を確認しており計画書に取り入れている。	担当職員はセンター方式のアセスメントシートや個人ノートに変化などの情報を記録している。会話や表情から利用者の思いを探り、毎月のカンファレンスで意向などを確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主にご家族様からの情報と入居前に利用していたサービスの担当者への連絡を密にしてその把握を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活リズムを理解し体調を考慮しながら力量を生かすよう務めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1回、ケアカンファレンスを実施して意見交換をしている。又、ご家族が面会に来られた際にも情報交換し計画に役立てている。	介護計画は3か月期間で見直し、担当職員、計画作成担当者、ホーム長とで評価を行い、家族の意向を取り入れて介護計画を作成しカンファレンスに諮っている。計画に連動した日々の記録方法について更に工夫を重ねていく意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録以外にも細かな関連する情報にはノートに記載することが日常的になっており出勤時、業務前に確認印を示している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望の際や外出の出入りの際など事業所内一階のデイサービスの職員などが支援するなど安心出来る体制が確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な身体状況があるが、大通公園の景観は存分に満喫できている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人の状態を十分把握した上でご家族様共話し合い受診に至っており、その時の指示経過なども共有している。	利用開始時に受診先を確認し、ほぼ全員が協力医の往診を受けている。又かかりつけ医の往診もある。専門の他科病院の受診に職員も同行し情報を共有している。「個人ノート」に受診内容も記録しているが、時系列での記録方法も検討している。	

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、専任の訪問看護師が入る為、1週間の体調と精神的な変化についても報告し、看護師からのアドバイスなども受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカー・看護師と連絡強化したり病院へ出向くなどして対応に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本年、初めて看取りを無事おえることが出来ました。	終末期に主治医の判断と家族の意向で看取りを行う時は、看取りケアの文章を交わしている。法人施設で看取りケアを行っている職員を講師に招き、看取りと心のケアを学んでいる。看取り後に全職員が振り返りの報告書を提出し、次につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット会議などで話し合い、マニュアル化している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した訓練を定期的実施することで、マニュアルを見直したり、より効率的に、かつ安全に配慮し人命救助を重視するよう務めている。	年2回の内、1回は消防署立ち会いで夜間を想定した避難訓練を建物全体で実施しているが、訓練に住民の参加はない。災害時には近隣の飲食店から避難場所や協力を口頭で得ている。事業所内で地震を想定した安全面の確認を予定している。	次回の夜間を想定した避難訓練には、住民の役割を明確にしての参加を期待したい。また、各災害を想定したチェックリストを基に災害備蓄品の整備を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る限り個々の尊厳を重視しております。	入社時に接遇研修を行い、馴れ合いにならないように目上の人として丁寧な声かけを行っている。申し送りは部屋番号で行い、個人が特定できないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ささやかな事ではあるが、起床の際、日常着を自ら選択出来るよう声掛けしたり、おやつの際の飲み物の希望を確認したりはしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間については個人のペースや体調を考えている為、朝食もそれに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用している。近所の美容室への同行も実施。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方にとって暮らしの中での役割を重視しながら介助を受けるだけの関係ではなく共に生活を支えて成り立っていることを目指している。	誕生日は、本人の好きな献立やケーキでお祝いしている。ジンギスカンパーティーをしたり、利用者と一緒にホットケーキなどのおやつを作る事もある。職員も、会話をしながら同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事量・水分量を記録に記入し日々の変化がないかを常時考慮し体調維持に務めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは全員実施している。磨き残しがないかなど歯間ブラシなども利用しながら職員が介助することが多い。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケース記録に排泄時間を記入したことで、排泄パターンを読み時間ごとの誘導することによって失禁を減らすよう支援している。効果は見られるが、数人である。	小声で声掛けを行いながら、日中はトイレで排泄できるように支援している。夜間は各利用者の状況に応じてポータブルトイレを使用したり、パットやおむつの交換を行っている。筋力維持のためにも、可能な限りトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食物で工夫したいが食材サービスを利用しているため限りがある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を希望する方は極めて少なく入浴を好まない方が大半の為出来るだけ午後はいつでも入浴出来る準備をしタイミングに応じて入浴出来る様になっている。	希望に応じて同性介助で対応して、数種類の入浴剤を使いながら、各利用者が週2回ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。入浴に拒否がみられる時は職員間で原因を検討して、タイミングを見ながら連携して声かけや誘導を行い入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、あまり入眠出来ない方には起床時間をづらしたり、日中休息出来るような働きをしている。又、湯湯婆など希望する場合には対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月2回薬局から届く薬の説明書きを職員は目を通し理解に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いなどで役割りを持ってもら一方で体操や合唱等、全員が集まって楽しむ時間を作っている。又、個別外出などで気分転換することを行なっている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿う事は職員体制や他の協力を得る努力をしてないため実行していない。あらかじめ予定を立てての外出はしている。	季節に応じて、午前と午後で交代しながら、車椅子の利用者も一緒に大通公園や電車通りに週5回程散歩に出かけている。大通公園で開催される、よさこいやビアガーデン、雪祭りなどにも出かけている。喫茶店に行ったり、男女に分かれてホテルのディーナーや居酒屋に出かける事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し使える方は一名である。様々精神的不安などを抱える方も多いため所持は難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話もご本人から要望することが出来ない方が大半である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関については、エレベーターを使用しなくては1階へ降りれないので理解しにくく不快と思う。共用空間のスペースが手狭なので移動は安楽であるがゆったりとした空間ではない。	居間の大きな窓からは大通公園が見え、四季の移り変わりを身近に感じる事が出来る。建物内は茶系の落ち着いた配色で、居間や廊下も派手な装飾をする事なく、観葉植物や季節の花をさりげなくテーブルに飾るなど、自然で家庭的な温かさが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限りあるスペースの為、独りになれる場所はない。(居室以外)		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込むケース少なく残念であるが、見慣れているベッドカバーや写真など持ち込み、本人が安心出来る工夫をしている。	各利用者の写真を額縁に入れて入り口に飾り、居室が分かるように配慮している。各居室の間取りを活かしながら、タンスやテレビ、ラジオなどの馴染みの物を持ち込んだり、家族の写真や小物類などを飾り、落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	複合施設の為、混乱する環境ではと、心配しているが、今のところ大きな問題はなく、手すりや照明等全面に設置されている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100230		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり大通西		
所在地	札幌市中央区大通西12丁目4-64		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族様と職員が共に入居者様が安心して暮らさしを目指し協力し合っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0190100230-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(3階から3階 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が自分らしく生活できるためにどのように支援していくかを職員間で話し合い事業所独自の理念をつくりあげている。愛情を持って利用者様に接しており、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前として地域交流は実現できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後の課題である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今回4回目が終了、今後も沢山意見を確認したいです。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点等は電話にて連絡し、札幌市で開催されている、連絡会議に出席し協力関係を築ける様取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の安全性上、施錠されているが、身体拘束については職員は研修で学んでいる。今後も定期的に繰り返し学習するよう検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修において学習している。又、事業所内部において事故防止委員会も開き、都度意識を高め防止に務めている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は詳しく学ぶ機会が今のところなく、その必要性を理解するに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には御家族様、御本人様の疑問点や不安、要望等をしっかり聞く時間を十分にとり、納得された上で、手続きを進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表せる機会はない。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、機会を設けており開設後も既に半年に一度のペースで実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績を把握し、向上心を持って働ける様、評価してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は定期的実施され職員は参加できている。法人外は、個人参加はある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ実施できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係作りを前提に詳細な情報を得ることで、思いを理解するよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここの入居に至るまでの様々な不安・困り事を受け止めた上で、ご本人にとって最も良い方向へ導けるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と介護支援専門員が中心となり御本人・家族に面談し状況把握に努め支援の方向性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の長年の経験を生かして活躍の場を作り尊敬の思いを言葉で伝え互いに良好な関係となっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本当に御家族様が面会に来られる頻度が多くそのため情報共有や意思確認が取れやすい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人様の友人や知人の方は時々面会に来られ、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を理解した上で利用者同士が円滑に関われるよう仲介に入り親しく出来るよう全員参加できるレク活動等行なっている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療の為、退去に至った方が入院先から帰ってくるに当たりその受け入れ先の施設を調べるなどしてご家族様に案内等を実施。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談の時から、御本人、又はご家族様には生活に対する意思を確認しており計画書に取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主にご家族様からの情報と入居前に利用していたサービスの担当者への連絡を密にしてその把握を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在、体調面を重視した生活リズムが主である。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様の意向を日々の生活の中から聞き取りや、言動から読み取り、1ヶ月に1回、ケアカンファレンスを実施して意見交換をしている。又、ご家族様が面会に来られた際にも情報交換し計画に役立っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録以外にも細かな関連する情報にはノートに記載することが日常的になっており出勤時、業務前に確認印を示している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスが多機能化するほどの取り組みは出来ないがその方に合った支援方法を常に考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	目の前の大通公園を眺め四季を感じ豊かな気分でも過ごせていると感じます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人の状態を十分把握した上でご家族様共話し合い受診に至っており、その時の指示経過なども共有している。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、専任の訪問看護師が入る為、1週間の体調と精神的な変化についても報告し、看護師からのアドバイスなども受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は面会に行く機会を多くし、病院関係者との情報交換や御本人様の状態を把握し、早期退院できる様に対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	らいらっく館においては今回、開設以来はじめて看取りを行い大変すばらしい経験をさせてもらいました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今回看取りに際し、職員間の連絡体制を夜間を中心に見直し夜勤者の負担を考慮するなど検討した。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した訓練を定期的を実施することで、マニュアルを見直したり、より効率的に、かつ安全に配慮し人命救助を重視するよう務めている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の人格を尊重し、各個人に合わせた声掛けや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人差もあるため出来る限り表情よく笑顔が見れる様心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間については個人のペースや体調を考えている為、朝食もそれに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用している。日常着はその方の好みを考慮し選択してもらってます。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	共に準備することが難しいので片付けはお願いしているが特定の方のみとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事量・水分量を記録に記入し日々の変化がないかを常時考慮し体調維持に務めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に口腔ケアの声掛けを行い、利用者様個々の能力に合わせ介助し歯科衛生士が入っている方も多い。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンがわかるようにケース記録に排泄チェックを記入し、利用者様のリズムに添った支援を心かけ、トイレでの排泄が出来る様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や朝に牛乳を飲んで頂く等している。一人一人の排便のリズムに合わせて、腹部マッサージや体操を行い、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在2人介助で入浴される方も2名おりその場合職員の都合が優先する時もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調を把握しながら、休息時間を確保し、日中の活動量を増やし、夜間の安眠へ繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から届く処方箋を個人ファイルに綴り、職員は服薬内容等、副作用についても理解、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限りみんなが楽しめるよう支援しているが役割を持ってもらえるような現状ではなくなっている。混乱しないよう努めております。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行能力の低下で限られた方の外出になったり、外出することで混乱が激しなど様々な精神状態の変化もありその機会は少ない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し使える方は一名である。様々精神的不安などを抱える方も多いので所持は難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や御家族様と電話で話されたり、手紙ではないが、年賀状でのやり取りができる様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関については、エレベーターを使用しなくてもは1階へ降りれないので理解しにくく不快と思う。共用空間のスペースが手狭まなので移動は安楽であるがゆったりとした空間ではない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在らいらっく館では、一人で過ごすよりも見慣れた顔が見える方が安心できるという入居者様が多いです。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込むケース少なく残念であるが、見慣れているベッドカバーや写真など持ち込み、本人が安心出来る工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	複合施設の為、混乱する環境ではと、心配しているが、今のところ大きな問題はなく、手すりや照明等全面に設置されている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームみのり大通西

作成日：平成 26年 4月 16日

市町村受理日：平成 26年 4月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事業所内での避難訓練は行っているが、地域の方の参加はできていない。	隣接の店舗の方、近隣のコンビニの方などに訓練の際は誘導見守りの協力を依頼し立ち合って頂く。	事前に年2回避難訓練を実施することを説明し、訓練の際に協力して頂けるかを確認。実施日が決まったらタイムスケジュールを書面と口頭で説明。隣接の店舗へは日頃より入居者様も利用しており依頼しやすい関係となってきている。	半年間
2	13	法人内で3ヵ月・1年研修はしているが、各人の経験年数や役職に応じた外部研修は必要だが現状全く参加できていない。	1年以上の経験者にはレベルアップの機会をつくる。	福祉協会などからの研修案内を職員に配布しシフトの調整を行いながら参加をすすめる。研修参加後にはミーティングの機会に報告してもらい他の職員にも周知する。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。